# 令和８年度　第１回
# 裾野市上下水道事業審議会
# 会議録

とき：令和８年９月 25 日（金）

ところ：裾野市役所４階 401 会議室西側

| | |
|---|---|
| 出　席　者 | 審議会委員：齋藤委員(学識)会長、中川委員(商工会)副会長、汐見委員(東)、白城委員(西)、臼井委員(富岡)、杉山委員(須山) 、田中委員(深良)、渡邉委員(消費生活)、大竹委員(公募)<br>諮問：村田悠市長<br>事務局：藤森部長、山田上下水道工務課長、松村上下水道経営課長、芹澤主幹、眞田主幹、渡邉主席技師、小河主席主査、小出主任技師、髙田、勝亦 |

内　容

R8 年度第 1 回審議会の開催をしたもの。

910～

お手元の資料の確認

912～

各委員は R7.4.1～R9.3.31 の 2 年の任期中で、R8 年度に委員の入替は無かったため委嘱状交付は無し。委員内から会長･副会長の選出も昨年度選出済みのため留任、そして市長から審議会会長へ R8 年度諮問書の手交を行ったのち、市長挨拶。

930～

市長退席

司会進行：会長（事務局進行:勝亦）

950～　次第参照

水道部審議会事務局のうち R7→R8 で職員が変わった者のみ自己紹介～

前年度からの委員交替等はなく任期 2 年目を継続。会長、副会長の留任を確認。

審議会条例に基づき委員過半数の出席（8/9）が認められるため会議は成立。開会を宣言。

議事録署名人：渡辺委員、大竹委員を指名。

1. 審議会の公開、非公開について

会長：原則公開、理由あらば非公開。事務局案はいかがですか。

事務局：今回審議会内容で報告部分については公表であるため、公開でよろしいのではないか。議事の簡水基本計画(経営戦略)改定は、まだ流動的であり個別の料金などの話に至る可能性があるため非公開がよろしいかと考えます。

会長：事務局より提案ありました。いかがでしょうか。

委員：異議なし。

会長：それでは、今回は一部非公開とします。

2. 議事

(1)報告_上下水道審議会（上水道･下水道･簡易水道）について・・・松村上下水道経営課長

(2)報告_今回諮問内容の説明・・・藤森水道部長

(3)報告_各事業の概要と経営戦略について

水道事業・簡易水道事業・・眞田主幹、下水道事業・・小河主席主査

(4)議事_裾野市簡易水道基本計画(経営戦略)改定案について・・・眞田主幹

次第 8. 議事

報告事項（事務局）

(1)(2)本年度審議会について･令和 7 年度答申に対する経過・本年度諮問内容について

下水道事業：昨年度、平均 16.4%の使用料改定を盛り込んだ経営戦略を改定(R8.3)。R8.6 市議会定例会にて条例改正を可決(R9.11 施行予定)。広報活動に注力。

水洗化(接続)促進：複数年休止していた対面啓発活動を再開(戸別訪問 31 戸、郵送 36 戸)。接続できない理由(工事費が数十～数百万円かかる・建物の配管構造が下水道本管と逆側･後継者がおらず家の建替予定がない･年金生活等)を把握。

簡易水道事業：R8 年度に漏水調査を実施し、継続審議となった(本年度諮問内容)

(3)令和 7 年度 各事業決算報告

・水道事業

収益的収支：収入 8 億 4,919 万円、支出 6 億 844 万円(純利益 2 億 4,074 万円)。

資本的収支：収入 1,988 万円、支出 3 億 3,655 万円(不足額 3 億 1,677 万円は内部留保資金等で補填)。黒字･健全経営を継続。

前年比較･特記事項：下水道落雷被害に伴う資産保険追加(収入･支出同額増)、平成初期借入の企業債 30 年償還終了により支払利息･償還金が減少。

経営指標：経常収支比率は県内 1 位。企業債残高対給水収益率･給水原価は県内上位。有形固定資産減価償却率が高く、将来の大規模更新時期への備えが必要。

・下水道事業

収益的収支：収入 7 億 2,307 万円(使用料 2.39 億円、一般会計繰入金 2.73 億円等) 、支出 7 億 1,734 万円(純利益 573 万円)。

資本的収支：収入 2 億 9,691 万円、支出 5 億 1,341 万円(不足額 2 億 1,650 万円は内部留保資金･積立金で補填)。預金残高は減少傾向。

経営指標：経常収支比率 100.8%(繰入金含む)。経費回収率 86.4%(R9.4 改定で改善見込み)。流動比率 15.0%（県内最下位）であり資金繰りが最大の課題。水洗化率は 93.5%。

・簡易水道事業

収益的収支：収入 4,812 万円、支出 4,576 万円(純利益 236 万円)。

資本的収支：収入 1,195 万円、支出 1,309 万円(不足額 106 万円は純利益で補填)。一般会計繰入金に依存した経営。

経営指標：給水原価は上水道の 4.5 倍(県内 2 番目に高い)。有形固定資産減価償却率は高く、法定耐用年数の 1.5 倍を超える老朽資産が多数存在。有収率の低さが最重要課題。

(4)議事（事務局）

・簡易水道事業基本計画(経営戦略)の改定(案)について

1100～

会長：質疑ございますか

委員：議事(4)　基本計画(経営戦略)改定案、先ほど事務局から今年度実施した漏水調査で漏水箇所 17 ケ所発見と聞いた。水量としては？

事務局：地中なので推計になるが、正直なところもっとあるだろうと想像していた。今回発見した 17 ケ所のうち特に酷そうな2ケ所を緊急修繕したところ約翌月で10,000㎥配水量が減りました。残り 15 ケ所を修繕してみないとわからない。修繕したら他で漏水する可能性もある。

委員：了。

次回以降継続審議